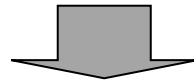


平成 30 年度 文京区立本郷小学校 授業改善推進プラン（理科）

身に付けさせたい力	中学年		高学年	
	3年	自然の事物・現象の差異点や共通点に気付いたり、比較したりする力	5年	自然の事物・現象を変化させる要因と変化させない要因を区別しながら、観察・実験などを計画的に行っていく条件制御の力
4年	自然の事物・現象の変化とその要因とを関係付ける力	6年	自然の事物・現象の変化や働きについてその要因や規則性・関係を推論する力	



児童の実態	中学年		高学年	
	3年	<ul style="list-style-type: none"> ○理科の学習に対する関心・意欲は高く、興味を持って取り組んでいる。 ○観察の視点を事前に示すことにより、詳しく観察することができる。 ○観察して分かったことなどを観察カードに書けるようになったが、そこから予想したり、考えたりしたことを書くのはまだ難しい。 ○身近に見られる動物や植物を比較しながら観察することで、共通点や差異点をみつけることができる。 	5年	<ul style="list-style-type: none"> ○自然の事物や現象の変化について関心をもち、課題解決や観察・実験に意欲的に取り組んでいる。 ○実験結果の予想を自分の生活や経験から導き出すことのできる児童が限られている。そのため、発言した児童一人の意見で予想が決まってしまう、いろいろな考えが出ないことが多い。 ○観察したことを記録する際、細かいところまでよく見て観察したり、記録したりすることが苦手な児童が多い。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ○植物や気温、電気のはたらきなどの観察・実験に興味をもって取り組もうとする児童が多い。 ○観察の視点を事前に示すと、詳しく観察することができる。 ○学習して分かったことを言葉や絵で表現することに苦手意識をもっている児童が少なからずいる。 ○観察や実験を通し、結果から考えたことを述べたりまとめたりすることが苦手な児童がいる。 	6年	<ul style="list-style-type: none"> ○問題解決の流れを理解し、実験・観察など目的意識をもって行うことができる。 ○実験には、興味関心をもち取り組むことができるが、実験器具を正しく操作し、実験を行うことが、まだ不十分である。 ○実験結果を予想し、考えることや、実験・観察の結果から考察して結論を導き出すことは少しずつできるようになってきている。 ○観察した事物・現象から、変化の要因や規則性・関連性を推論しながら調べ、自分の考えをまとめることが苦手である。 	



授業改善の具体的な手立て	中学年	高学年
	3 年	5 年
4 年	6 年	
	<ul style="list-style-type: none"> ○比較の視点をもちやすいような、事象提示を工夫する。 ○主体的に解決するため、児童の体験活動から問題をつくっていく。 ○問題、仮説、観察・実験、結果、考察、結論といった問題解決の流れに沿って授業を行うことで、目の前の事象だけでなく、そこから予想したり、類推したりする科学的な考え方を身に付けさせる。 ○観察の視点をあらかじめ示すことで、何を観察するのか明確にした記録ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事象提示の吟味、工夫を常に行い、児童が関心をもって課題解決のための実験や調べ学習に取り組めるようにしていく。 ○観察や実験のやり方を試演したり、確認したりすることで、正しい実験の仕方や実験器具の扱い方を身に付けさせる。 ○個人の時間を確保した後、話し合い活動を授業の中に意図的に設定し、意見の交流を行うことで、話し合いの型を身に付けさせたり、自分の意見を深化させたりする。 ○実験の後や単元のまとめの時間に、実験結果や知識を活用・適用して解く問題を設定して、知識を活用する力を伸ばしていく。
	<ul style="list-style-type: none"> ○学習した用語を授業中に振り返る機会を意識的に取り入れ、学習内容の理解と知識の定着を深めていく。 ○観察や実験の方法を事前に丁寧に確認し、正しい実験の仕方、器具の扱い方を身に付けるようにする。 ○結果を記録する際、同じ視点で比べるように促し、関係性や違いを見付けられるようにする。 ○課題意識をもち、問題解決の流れに沿って授業を行うとともに、ことで、目の前の事象だけでなく、そこから予想したり、類推したりする科学的な考え方を身に付けさせる。結果から考察ができるように指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○導入で演示実験や映像資料を取り入れたり、児童が本当に調べてみたいと思うような課題提示をしたりすることで、単元を通して児童の関心を高めていく。 ○実験の前にしっかり実験の方法や器具の扱い方を確かめてから、取り組むようにさせる。また、実験器具を扱う機会を多くし、正しく操作できるようにする。 ○予想→検証（実験・調べ）→結果→結論という授業の流れを実施する。その中で、話し合い活動を取り入れる。また、ノートに自分の考えを書く、実験結果を記録する、調べたことをまとめるなどの活動を通し、思考力・表現力を伸ばしていく。 ○実験の後や単元のまとめの時間に、実験結果や知識を活用・適用して解く問題を設定して、知識を活用する力を伸ばしていく。